

決算審査特別委員会

第56号議案・平成30年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について及び第57号議案・平成30年度白石市水道事業会計及び下水道事業会計決算の認定についての2議案は、定例会2日目(9月9日)の本会議において質疑が行われた後、議長及び監査委員(松野久郎)を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・四竈英夫、副委員長・大野栄光)は、9月11日に現地を調査し、9月11日及び12日の2日間にわたり審査を行いました。その結果、第56号議案及び第57号議案については、反対及び賛成の討論があり、採決の結果、賛成多数で認定しました。

審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

一般会計

総務費

配りPRを行なったところ、平成31年3月は月328人となり、初めて月300人を超した。それ以降は、4月から8月まで月320人前後を推移している状況である。

ほかの市民バス1便当たりの乗車人数を考慮すると、月600人を目標としているが、継続するにはある程度の人数に乘車してもらおう必要があることから、その可否について、今後検討していきたいと考えている。

このことから、チラシなどを

民生費

〔質疑〕高齢者福祉事業における敬老会については、平成30年度から各地区の自主的な開催について助成をしていくという改正がなされた。

平成30年度では31団体が開催しているが、どのような団体で、どのように行われたのか伺う。

〔答弁〕団体については、越河、斎川、小原、大平、白川の5地区では地区全体で敬老事業が開催された。また、その他については、自治会単位で行われており、全部で26団体となっている。自治会単位の場所では、お互いに顔見知り同士という関係も相まって参加しやすい雰囲気となっていた。また、自治会からは、高齢者の確認が再確認しやすくなったという話も伺っている。

商工費

〔質疑〕白石スキー場整備事業について、平成30年度は前年度に比べ入場者数が約2千人減っている。

特に3月と比較すると約3千人近く減っている状況だが、原因をどのように考え、また次年度に向けて何か検討しているのか伺う。

〔答弁〕平成30年度は、雪解けが2月の中旬ごろから始まり、3月に入ってからコース状況がかなり悪化したことから、入場者が減ってしまった。

今後は、関連する施設の改善やコースの整備を行うとともに、夏場、秋場に関するスキーシーズン以外でも、さまざまな施策を行なっていく予定としている。

土木費

〔質疑〕まず、入居前の部屋全体の大規模改修を行っており、11室の実績がある。

また、給水施設として、新館、城南、緑が丘、岩崎市営住宅のポンプ設備修繕工事も行っており、合わせてこの額となっている。

教育費

〔質疑〕小中学校教室エアコン設置事業について、設置費にかかる台数の単価が各学校によって大きく違っているが、その理由を伺う。

〔答弁〕今回の設置に当たっては、今後10年間の燃料代や維持管理費なども含め、最も安価な方法であるガス式エアコンと電気式エアコンのバستمックスを検討し、各学校ごとに設計している。

ガス式、電気式の構成割合なども異なり、教室の広さによってもエアコンの単価が違ってくることから、各学校によって設置費用が違っているものである。